普及活動情勢報告（令和５年２月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

つる下ろしナス栽培ほ場を視察しました　～中芸地区園芸研究会～

１月 20 日、中芸地区園芸研究会の部会員 20 人と、営農指導員２人とともに、安芸市のつる下ろしナス栽培ほ場で視察研修を行いました。参加者らは、主枝の下ろし方、整枝摘葉、収穫、収量、環境測定装置と SAWACHI を活用したハウス内環境の管理について、視察先のほ場の園主と積極的に意見交換をしました。

農業改良普及課からは、ナスの障害果について情報共有し、SAWACHI で時期に応じた営農情報がから見られることを伝えました。

今後も、最先端技術を導入する栽培ほ場への視察研修を行い、栽培技術向上と生産者同士の交流を促します。

SAWACHIでデータを活用しませんか　～芸東きゅうり現地検討会～

１月20日、JA高知県芸東集出荷場きゅうり部会は現地検討会を開催し、生産者４人が参加しました。

農業改良普及課室戸支所からはSAWACHIの活用方法について周知したところ、早速1人から「ハウス内環境や市況情報を見たい」とSAWACHIの申請があり、前向きな姿勢が伺えました。

種苗会社の講師からは県内や全国の栽培状況について情報提供があり、他産地の情報に興味津々の様子でした。

今後も農業改良普及課室戸支所は部会活動やデータを活用した農業の実践に向けて支援していきます。

データ駆動型農業の取り組み　～環境データ共有シートの返却～

農業改良普及課は、IoPクラウド「SAWACHI」を利用し、環境データの見える化がされているナス生産者14人を対象に、毎週、１週間分の環境データをまとめたシートを共有し、データに基づいた栽培管理につながるように指導しています。

生産者からは、適切な温度管理ができているか、かん水量を増やすタイミングなどの参考になるという声をいただいています。実際に、夜温や炭酸ガス濃度を上げるなど管理方法を改善している生産者もいます。

農業改良普及課は、今後もJAと連携し環境データに基づく管理を提案し、環境制御技術の活用、収量向上に向けて支援していきます。

これ以上、耕作放棄地を増やしたくない！！　～奈半利町大原・西ノ平地区～

２月７日、地域計画の作成に向けた座談会を開催し、耕作者６人が参加しました。
集落の農地地図を見ながら、現在の状況や後継者の有無、今後の作付けの意向などについて、書き込んでいきました。
参加者からは、「このまま荒れるがやったら、管理が楽な品目を植えれんろうか？」や「果樹はどうやろう？」といった意見があり、農地を維持していく取り組みを検討するきっかけとなりました。
農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら農地維持に向けた地域での話し合い、取り組みを推進していきます。

芸西村地域農業の将来について話し合う座談会の開催

２月13日、芸西村村民会館で地域計画作成に向けた座談会を開催し、関係機関を含め11人が参加しました。
地域の拡大地図を囲んで、将来の担い手がいる圃場、保全管理をする地域などについて話し合いました。
「問題は山手の田の保全管理。自分たちができなくなれば耕作放棄地になっていくのではないか」「この辺りは基盤整備できれば新規就農者も呼べるのではないか」など活発に意見が出されました。
農業改良普及課では、地域の農業が今後も継続していけるよう新たな情報の提供や仕組みづくりに向けた提案をしていきます。

データ共有で気付きも増大！　～穴内ナスデータ農業研究会～

２月17日、穴内ナスデータ農業研究会が勉強会を開催し、生産者14人が参加しました。
農業改良普及課は、SAWACHIのデータ共有画面に新たに作成した「環境データ比較画面」や、「２週間毎の出荷量表示画面」の説明を行い、それをもとに参加者同士で意見交換が行われました。また、参加者からは厳寒期のハウスの温度管理について教え合う様子が見られ、それぞれの温度管理について課題や改善点を振り返る機会になりました。
農業改良普及課は引き続きデータ駆動型農業の実践に向け、SAWACHIデータ共有グループの運営を支援します。